

STAGE+を楽しむ(176)(HP 収載)

—ツィメルマンのショパン—

1. 始めに

前報(175)に引き続き、STAGE+のツィメルマンのショパンの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はツィメルマンのショパンの演奏を選びました。

ツィメルマンの伝説的なショパンの演奏を収めたビデオリサイタル

1987年ウィーンにて

収録日: 1987年2月1日

1975年にショパン国際ピアノコンクールで優勝して以来、世界で最も尊敬されるピアニストの一人となっているクリスティアン・ツィメルマンの伝説的な演奏を収めた映像です。彼は最も得意とするショパンの作品をウィーンで演奏し、プログラムにはバラード4曲をはじめ、スケルツォ第2番に幻想曲へ短調、舟歌などが選ばれました。ここで聴き頂けるものは現在でも決定盤ともいわれる名演であり、技術に音色、構築性が最良のバランスで絡み合い、極上の演奏を生み出しています。

ソリスト:

クリスチャン・ツィメルマン (ピアノ)

フレデリック・ショパン スケルツォ第2番変ロ短調 op. 31

フレデリック・ショパン 夜想曲 op.15: 第2番嬰へ長調 : *Larghetto*

フレデリック・ショパン バラード第1番ト短調 op. 23

フレデリック・ショパン バラード第2番へ長調 op. 38

フレデリック・ショパン バラード第3番変イ長調 op. 47

フレデリック・ショパン バラード第4番へ短調 op. 52

フレデリック・ショパン 幻想曲へ短調 op. 49

フレデリック・ショパン 舟歌嬰へ長調 op. 60



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

1975年にショパン国際ピアノコンクールで優勝以後、活躍の続いているツィメルマンのビデオリサイタルの無観客での1987年収録です。

曲目はすべてお馴染みの曲ですが、ツィメルマンのかかるとまったく世界が変わったかのような独自の境地の演奏になります。

鋭角的なタッチ、抑揚、強弱、緩急が、激情、抒情、詩情、旅情を表現してくれます。とりわけ強烈な打鍵による激情の表現が印象的です。

バラードの第1番から第4番を通して聴く機会はあまりありませんが、このようにして聴くとそれぞれの表情がよく分かります。

4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、ツィメルマンによる、激情、抒情、詩情、旅情などのショパンの表現が明瞭です。

以上